

会報55号

| | | 頁 |
|---|--------------------------|----------|
| 1 | ご挨拶 | 堀内浩太郎 1 |
| 2 | 協会会報の電子文書化(ホームページ掲載)について | 深町得三 2 |
| 3 | 韓国人力船大会10周年について | 深町得三 3 |
| 4 | マイクロランサット | 鶴沢, 堀内 4 |
| 5 | 柳原さんの講演から | 柳原, 堀内 5 |
| 6 | ユーチューブについて | 堀内浩太郎 6 |
| 7 | 村上さんから頂いた人力潜水艦の写真 | 村上, 堀内 7 |
| 8 | 人力潜水艦について 及び 現地報告 | 村上正俊 10 |

ご挨拶

2007年もいよいよ終わり、新年を迎えようとしています。新しい年に当たって理事の皆さんから会報の電子化についての提案がありました。その事についてまず皆様にご説明をすることになります。会報55号は紙の会報と電子印刷の会報を両方出すそうですが事情が許せば電子印刷だけにして経費の節約を計りたいものです。まずはご説明をお読み頂き、ご意見が伺いたいものです。

来年は韓国的人力船大会が10周年の節目を迎えるそうです。めでたい節目になるべく日本からも数多くのチームが参加して欲しいと主催者は希望していると聞きます。協会としてもその後押しがしたいところで、前号には深町さんが参加の計画に当たって必要なことを細部に亘ってまとめて下さいました。本号にも日取りなど説明を頂きましたので、是非皆様も計画してみてください。

マイクロランサットはマイクロランスアトランティックレースの略だと思えます。即ちマイクロ大西洋横断レースというわけです。自律航海で走らせる無人のヨットに大西洋横断させるのですから夢が大きい。鶴沢さんは参加を強く希望しておられます。皆さんも考えて頂きたいと思えます。

コギトグループが20ノットオーバーの世界記録を狙っています。柳原さんがその話をヤマハ発動機の技術展示会の折にされたそうで、その時に出てきた夢の船の片鱗を載せました。未だこれからの計画図ですが、興味が尽きませんのでご覧下さい。

ユーチューブという面白いホームページを知りましたのでご報告します。

村上さんから面白い話がありました。アメリカの南北戦争の頃的人力潜水艦の詳細な写真を頂きましたので掲載いたしました。何人も人が死んでいる船ですが、写真を見ると構造が良く理解できて興味が沸きます。村上さんの出張報告と合わせてご覧下さい。

皆様どうか良いお年をお迎え下さい。

2007年12月吉日

深町 得三

協会会報の電子文書化（ホームページ掲載）について

今年も余すところあとわずかになりました。7月の大会で参加者の皆さんにお伝えした、会報のホームページ掲載による電子文書化の準備作業が、プロバイダの変更に伴って、いよいよ佳境に入っています。

新しいプロバイダ：nifty に切り替えたことによってホームページのサイズアップが可能となり、2008年から、会報は従来の紙での配布から、ホームページにアクセスして閲覧してもらう方法に切り替わります。つまり、紙媒体での配布は今回の会報55号が最後ということになります。

また会報55号は、電子会報パイロット版として、会員以外の皆さんでも協会ホームページからアクセスできるようにしました。既に新しい協会サイトのURLはご承知と思いますが、まだ接続していない方は、ぜひ一度お試し下さい。

新 URL: <http://homepage3.nifty.com/jsba/>

この会報がお手元に届く頃には、電子会報55号（パイロット版）がアップロードされているはずです。

パイロット版は、特例として誰でもアクセスできる仕様で発行しますが、3月末発行予定の会報56号からは、会報の中味によって、不特定多数にオープンする内容と登録会員のみが閲覧できる内容の二つに分けて情報の提供をしていきたいと思っております。

併せて、会報バックナンバーもホームページ上に掲載して、希望者は過去の有益な技術情報等をダウンロード（有料）できるようにしたいと思います。

会員登録方法の詳細は、今後、協会ホームページでご連絡してまいりますので、時々ウォッチしてみてください。プロバイダ変更を機に、コンテンツの更新も、より頻繁に行い、内容も充実させて、会員の皆さんの声を反映しやすいホームページにしていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。

2007年12月吉日

深町 得三

韓国人力船大会10周年について

会報54号でもお伝えしましたが、2008年で韓国の人力船大会が10周年を迎えます。主催者の忠南国立大学校、金炯太教授からは、10周年記念大会を盛り上げるため、日本からもぜひ数多くのチームが参加して欲しいというメッセージをもらっています。

来年の大会日程はまだ決まっていますが、過去の例から、およそ8月8日（金）、9日（土）開催の公算が大です。

過去、日本からは2002年の広島大チームを皮切りに、コギトチーム、東海大チームが参加しています。大会が開かれるテジョン（大田）市は、韓国の丁度中央部、ソウル駅からは新幹線（KTX）で1時間程度、会場のエキスポ公園はテジョン市の北にあるユソン温泉地区から近く、温泉ホテルに宿泊して大会に参加することが出来ます。

2003年に参加したコギトチームは、乗用車2台にボートをルーフトップで運んで、下関から釜山までフェリーで渡り、釜山からテジョンまでは3時間ほどのドライブで現地に着きました。費用的には乗用車2台+メンバー10人のフェリー料金が往復で約30万円（一人当たり3万円）、現地での宿泊、食事費用が1日一人当たり1万円弱でした。

現在はフェリーでの荷物運搬に関する規則が変わって、ルーフトップでの輸送は不可能になったようなので、参加艇をまとめてコンテナ輸送することも、協会として検討したいと思います。参加をお考えのチームは、早めに意思表示をお願いします。

渡航準備や手続きに関する情報は今後随時、協会のホームページに掲載して行く予定です。

関釜フェリー：<http://www.kampuferry.co.jp/index.htm>

パンスター・フェリー：<http://www.panstarferry.com/index.htm>

マイクロトランサット

鶴沢、堀内

東大の鶴沢潔先生から面白いニュースを頂きました。イギリス、フランス、オーストラリア、カナダの大学が協力して大西洋横断の無人ヨットレースを計画しているのです。友好的なコンペティションを通じて自律的に航行するセールボートの開発を刺激しようというのが狙いです。

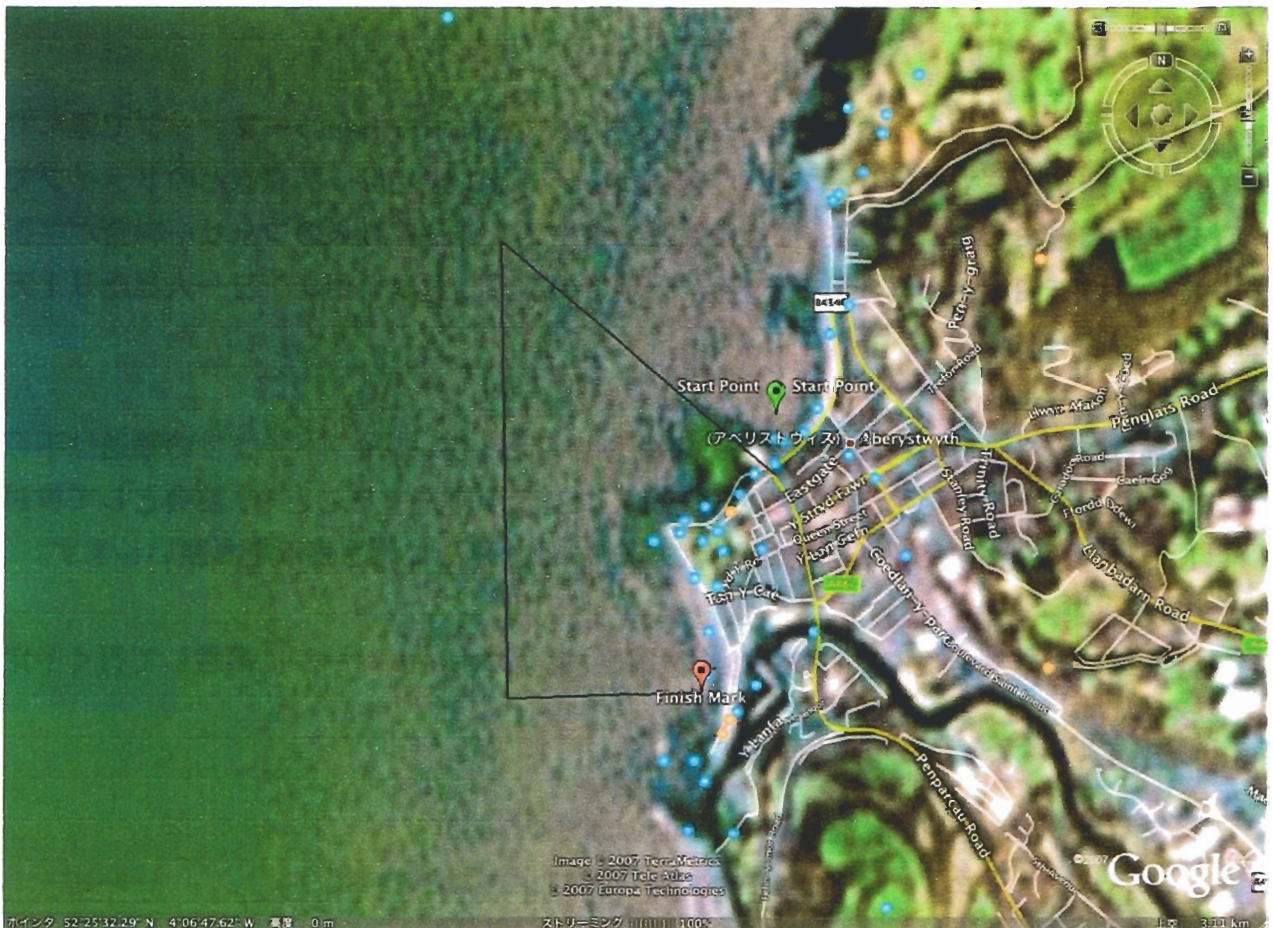
船の全長は4mで、コースはあらかじめ艇にプログラムされるようです。太陽電池の使用が認められていて、レースの時期は2008年の末頃とされています。

いきなり大西洋横断と言っても一寸想像しにくいと思いますが、その前に小さな二つのレースが予定されていて、それが今年の9月2日から6日まで英国のウェールズの西海岸のアベリストウイスに近いアイルランド海で行われた筈です。ショートレースは下図に示すようなコースで長さは約2km、もう一つのロングコースの方は約10kmのコースを走って経験を積み、本戦の計画を練るようです。既に4つのチームの出場が決まっており、さらに3校が出場を検討している状態とのことです。詳しくは下記のホームページをご覧ください。日本からも是非参加して欲しいものです。

鶴沢さんご自身も、「私個人としては強く出たい!」と思っています」とのことでした。

凄く面白い試みですね。

<http://www.microtransat.org/?lang=en>

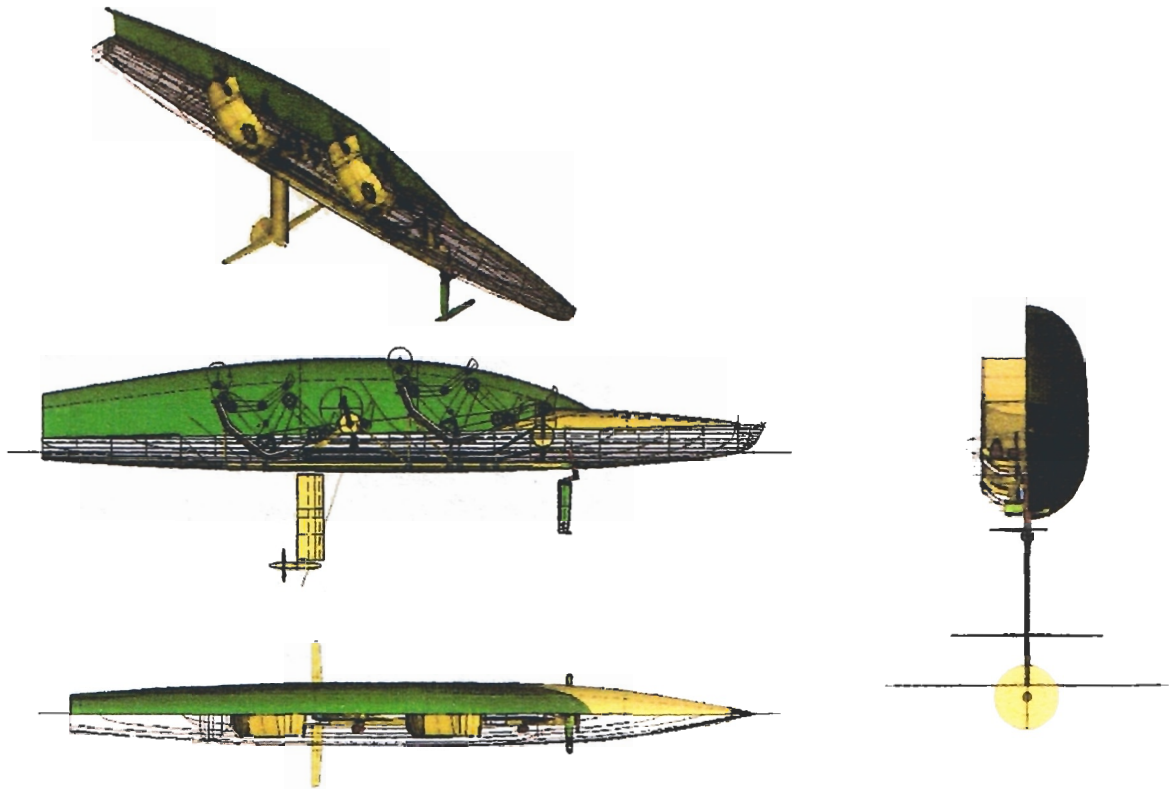


柳原さんの講演から

柳原、堀内

最近のヤマハ発動機の技術展において、柳原さんが「コギト」について講演されました。その中に現在計画中の20ノット以上の世界機記録を狙う人力ボートの絵が出てきましたのでご紹介します。但しこの絵は新しく計画している船体の形状に今年走ったコギトのフレームの図面を重ねたもので、これからレイアウトを詰めていくための図面ということであります。その為、はみ出しなどあって今後いろいろな修正が施されるとは思いますが、いかにも空気抵抗の少ない、流麗な形状をご覧頂きたいと思えます。

柳原さんによると、漕ぎ手が露出したコギトⅡが16ノットで走る時の空気抵抗が約2.2kgで全抵抗の15%に達するという事です。そのままの形では20ノットを超える時の空気抵抗が3.5kgに増えて了います。流線型の覆いを付けることでこの抵抗を何とかして減らさないと20ノットを超えることは出来ないというわけです。これからの進展を楽しみにして頂きたいと思えます。



ユーチューブについて

堀内浩太郎

皆様ユーチューブ (YouTube) というホームページをご存じでしょうか? 誰でもビデオが投稿できるホームページだそうで、たまたま私の本 (あるボートデザイナーの軌跡2) の英訳版のPRにとアメリカの友人がこのホームページに投稿しました。是非見ろというので、最近見始めましたが、私達がヤマハで開発した水中翼船(OU32)の数分のビデオが見て頂けます。また関連するビデオをすぐに見やすいよう構成されておりまして、あらゆる水中翼船、高速モーターボート、高速ヨットなどの動画が手近に見られるのです。下には最近水中翼化が進んでいるヨット、モス級のURL及びOR32のURLを載せました。お楽しみ頂ければ幸いです。

<http://www.youtube.com/watch?v=9PGEiy7L-aQ&feature=related>

<http://www.youtube.com/watch?v=wObflyTPLvM>



MOTH

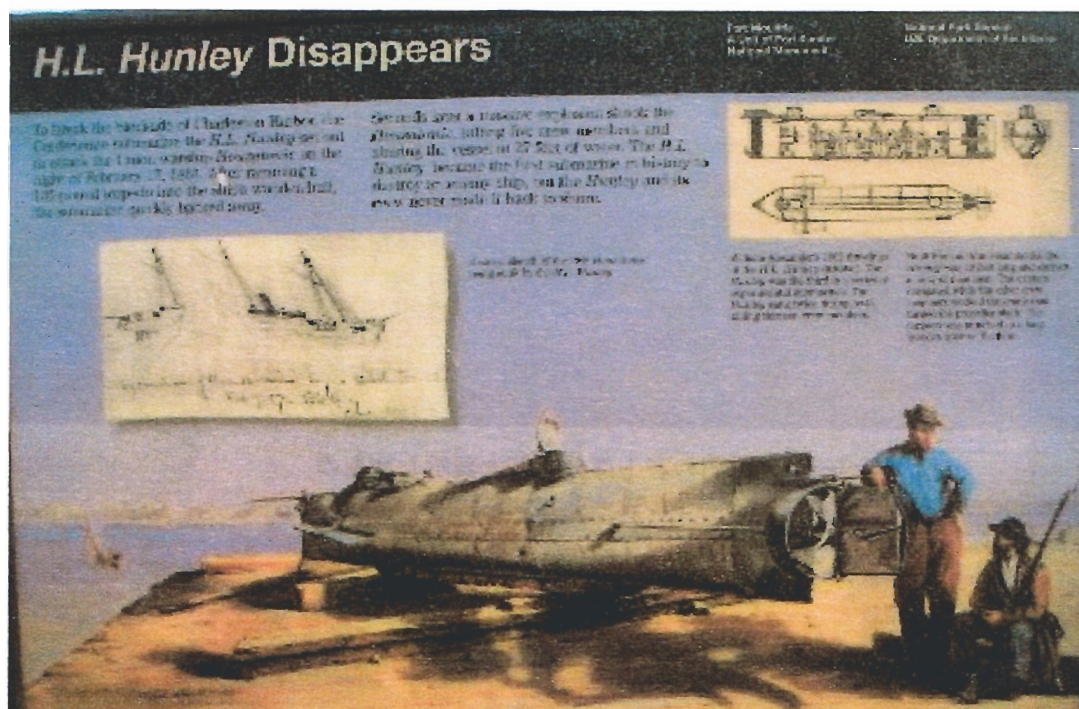


OU32

村上さんから頂いた人力潜水艦の写真

村上、堀内

村上さんが米国で見られた南北戦争のイベントで8人漕ぎの人力潜水艦の写真を撮って来られたのでご紹介します。写真の後になっておかしいかも知れませんが続いて村上さんの軽妙な文章がありますのでこの写真と見比べて状況をご理解願いたいと思います。私は南北戦争の折に潜水艦が使われて一定の戦果を上げたという話を聞いたことがあるように思いますが、どうも詳細を思い出せません。しかし実物が残っていたというのは驚きました。



これはそのイベントで使われた人力潜水艦の説明板です。

H.L.Hunley はこの潜水艦の名前で、右上に「ハンレイは消えた」とありますが、その下の説明はどのように読めないで諦めました。一方上図の右上の船の図面の部分は拡大図が次のページにありますので読んでみます。

その説明によりますと、この潜水艦の図面はウィリアム・アレキサンダーが1902年に設計したH.L.ハンレイという船で、ハンレイは試作潜水艦シリーズの3番目に当たり、テスト中に2度沈んで13人のクルーメンバーを殺した。とあり戦果のことは書かれていません。

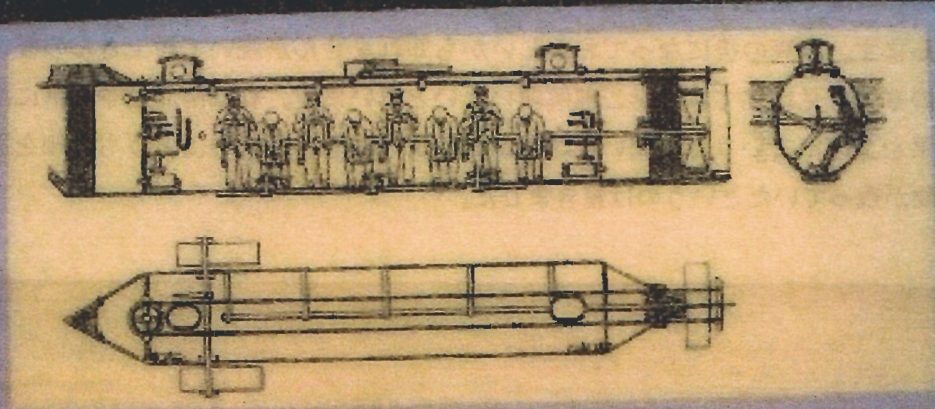
もう少し読んでみますと、ハンレイは鉄の蒸気ボイラーから作られており、長さは40フィートで9人乗りだったとあります。キャプテンは他の8人メンバーがクランクでプロペラシャフトを廻している間艇を操縦した、ともあります。キャプテンは図に画いてありませんが、左の端、船首で天井を通るシャフトを介して舵を動かし、且つ左右船外の昇降舵を操ったようです。後に出てくる実物の写真ではシャフトが下の方を通っていて、後部でロッドを使って上の軸に動きに移しています。

文の最後には爆雷は船首に付けた長い木の棒の先に取り付けた、とあります。船の断面が楕円なのも不思議なら、この爆雷を付けて方向安定が保てたのも不思議です。そしてこの危なっかしい船に乗った人の気持ちどんなだったでしょう？

Fort Moultrie
A Unit of Fort Sumter
National Monument

National Park Service
U.S. Department of the Interior

the
ad
H.L.
story to
ad its



William Alexander's 1902 drawings of the *H.L. Hunley* (above). The *Hunley* was the third in a series of experimental submarines. The *Hunley* sank twice during tests, killing thirteen crew members.

Built from an iron steam boiler, the *Hunley* was 40 feet long and carried a crew of nine men. The captain navigated while the other crew members worked the crank that turned the propeller shaft. The torpedo was attached to a long wooden spar on the bow.

前ページの説明の右上部分を拡大表示したもの



人力潜水艦全景、船首から細い棒が突き出し、その先に爆薬らしき物が見える



椅子の下に操舵軸が通る。操舵軸の動きはロッドで上に移して舵を動かす。クランクと推進軸はチェーンでつないでいるが等速らしい。



クランクは少しづつズレている。



上のロッドの回転で舵を左右に振る。
どうしてプロペラにガードのリングが要るのだろう？



南北戦争時代の娘さんを従えた村上さんの雄姿。

村上正俊 現地報告.

いつもお世話になります。

本日は2004.09.26(日)

現在、アメリカ合衆国はサマータイム、

時差は13時間で日本が朝8:00のときはサウスカロライナは夜7:00です。

"もう、早く出かける日の出勤時にはお日様出てこなくなり星もうっすらと見えます。"

こらの気候は9月の3週に入ってから急にすごしやすくなりました、

私が到着した9月7日の週は残暑と言うより真夏でハリケーン(フランシス)到来でしたが、朝晩はもう半袖では寒くなって薄手のジャンパーを着ています。

(アメリカ人はもちろん半袖短パンですが・・ちなみに駐在者のMさんを半袖で朝の駐車場でお見掛けしました)

朝の通勤は時々 インターステイト95を通らずに一般道で通っていますが

通勤道路沿から見る畑は緑の葉陰からのぞく白色の綿花で 緑白織りなす綿花畑のじゅうたんが見えます。

宿泊はFLORENCE(フロレンス)のForest Lake Apartments(フォレストレイク)、部屋番号はF1412で最初のアパートから変化はありません。

電話番号は日本から掛ける場合は010-1-843-629-1488です。

携帯電話は1-281-961-4662 日本から掛ける場合は010-1-281-961-4662です。

炊事、洗濯は相変わらずですがHSCカフェテリアの日本食が充実してきてほとんどアパートでは昼の弁当は作りません、夕食は作りますが週末などたまには外食をします。

前回に引き続き週末外食シリーズ パート-5です。

先週土曜休みの日の外食(昼食)は、フロレンスからインターステート95号を南下し26号と交差するところで西に折れ26号の終点サウスカロライナ州の港町チャールストンに行きました。(ノースカロライナ州アッシュビルから西に【感覚的には南ですが】26号をグリーンビル、コロンビアを通過してチャールストンに至る)

フロレンスから車でインターステートの流れに乗って(制限速度は70マイルです)片道約1時間40分程のところ。この町は現在港の観光都市ですが古くは南北戦争前の頃、奴隷売買がさかんでプランテーションのオーナーが陸揚げされた奴隷を引き取る港でもあったそうです。現在でもサウスカロライナ州最大の貿易港です。

ちなみに、サウスカロライナ州の北西部に位置する工業都市グリーンビルにドイツの四輪

メーカー BMW社が有りこの四輪工場で生産されたZ4などのスポーツカーがチャールストンの港から船積みされています。

(あっ・・・ここで作ってたの！)(なんか心配だな～！)

観光パンフレットの話ですが、インターステート95号から北上しジョージア州からサウスカロライナ州に入ったり また、

南下しノースカロライナ州からサウスカロライナ州に入ったりすると州の境を過ぎるとすぐに観光案内のウエルカムセンターがありますが、ここには州全体の観光案内をしてくれたり観光パンフレットが必ず置いてあります。(地図も同じタダでくれます)

港町チャールストンはノースカロライナ州一番の観光都市でウエルカムセンターの観光案内の半分をしめる観光名所と言っても過言ではありません。(過言です じゅうぶんに：：：はい！)

この町はアシュレイ川とクーパー川に挟まれた中洲の半島になっています。

半島の中洲からクーパー川を挟んで対岸を結ぶ前回のサバナ同様にトテツモナク橋脚が高いリベット止めの古典的アーチ型の橋があります。現在は新しい橋を架け直しています、3年前は地ならしだけでしたが昨年くらいから橋脚が立ち始めました。

また クーパー川を挟んで対岸パトリットポイントとよばれる地区には第二次世界大戦に活躍した空母ヨークタウンが停泊展示してあります。

中洲半島の岬側にプランテーションのオーナーも住んでいた別邸の町並みがあります。

(本宅はと言うとプランテーションの中で広さは自衛隊浜松基地くらいは有ると思うでしょ・・・？ 実際は本物のアシュレー川が庭に流れていてもっともっと大きかった！)

いまでも当時のままの町並みで保存されており。(実際に現在の金持ちが住んでいてベランダで食事なんか楽しんでいる光景を目にします)

大きな教会も多く、歩いていると通りの合間からいくつもの教会の尖塔が顔をだしたりします。

このむかしの町並みは南北に走るキングストン通りとプレジデント通りを南下し東西にはしるブロード通りを越したあたりから2つの大通り沿いに見ることが出来ます。

また、奴隷を陸揚げする港からマーケット通りが2つの通りに接続するかたちで貫いています。

マーケット通りにはいまでも名前のおり煉瓦つくり鉄格子のあるマーケットが300m程一列に並び鉄格子も残っているので昔の奴隷市場のように見えます。

(奴隷取り引き場(オールド スレーブ マート)は少しはなれた所にあり博物館のようになっています。「入場無料」)

ここのお土産物屋さんはいつ行っても行列となって活気づいています。

このマーケット通りの真ん中ぐらいに位置する小さな公営駐車場(料金最長で6\$半日で4\$くらいですが周辺のほかの駐車場は1回6\$が相場です)

からアメリカ西部開拓時代風の馬車が観光用として数多く発着しています。

数えたことは無いけど20台以上は町中を車の合間をぬってのんびり走っています。(けし

て交通渋滞にはなっていない不思議な光景です)しかし、港町チャールストンのメインストリートは何と言ってもキングストーン通りで昔の町並みそのままの建物に中を改装したお店。

女性のすきなブランド店も数多く、値段もアウトレットのお店とくらべても1割増しぐらいでしょうか!?品数は5割増しぐらいでしょう。

金持ち地区(半島の先端の公園付近)に近くなると骨董屋(アンティークとも言う・・・たしかに 骨董 唐草 なんて看板は無い!!)が通りの両側に多く見られあるいていても金持ち気分??

南部地方のお店なのにガラスのショーウインドウに鉄格子もついていないし、閉店後もショーウインドウの明かりを落としていないため夜歩いてもとても華やいだ気持ちになれます。

今回はこの通りでのお昼食の話です。

お店は HYMAN'S CHARLESTN じゃなくて、サンドウィッチがウリのレストラン FAZOLI'S

ここのお店の中には南北戦争前のキングストーン通りの写真が壁一面(ほんとうは3面)貼ってあり、なんと・・・

このお店も写真に写っていますです。

……で、写真だけじゃなく店内

店内のホールはワンフロアのためスパン(専門用語使うな!)が広く、それを支えるための柱 店内に林立(なんとうそっぽい表現)している訳ですが、この柱がアメリカなわけ……どこが…???

なんと、道標になっていて町名あり、通りの名前あり、このお店の名前ありで また、これが当時のまま残っていたかの様に

本物にうりふたつ(まあ冷静になって……よく見るとやっぱりアメリカです、……おい、こら～～ セッカク盛り上げたのに冷静になるな!!!)

まー 要するに雰囲気は最高アメリカン なんてったってお店中アメリカ人(嘘つけおまえは亜米利加人か??)・・・はい。東洋人です!

ここでCHARLESTN チックなお昼をと、ターキーのサンドウィッチを女給さんに注文(サーバーって言うんだぞ飲み物頼め・・・いきなり食べ物頼むんじゃない!)

この無法者

(おまえは調子に乗って いまだにレストランの決まりごとがわからないのか・・・と言う声が聞こえて来そうですが)

ご心配無くこのくらいの約束ごと破りは私 にとってはOK????(やっぱり)

しかしお店はとても繁盛、なかなか待たせるのでありました…不安(きっとあなたの英語では伝わらなかった)

待った甲斐あり、ターキーの味はあっさりあじでスパイスもほど良く日本人にもぴったりの味。おせいじ抜きでおいしいマクドナルドやバーガーキングとは一味ちがうさわやかさ

本日はあまりの美味しさに そのまま半分のこして3時のおやつにとドギーパックをもらい
テイクアウト

お支払は現金で

出費はチップこみで\$ 6. 5 5

またメールにてのお願いが多々あるかとおもいますが、宜しくお願いします。

2004. 09. 26 (日) フローレンス 於いて MSS 村上正俊

P S

前回の【朝鮮人参-D】に引き続きスタミナドリンクシリーズの パート - 3です。

今回はチャールストンの近くでアシュレーの町にあるアジア食材の店で

去年から気になっていたスタミナ?! ドリンク を買いました。

商品名が 【レッド-ボアー】 ガラスビンに赤イノシシのマーク

レッドブルのパロディ版

レッドブルの牛がイノシシ風に変わっています、このレッテル貼ってあり\$ 3. 00

またしても…ウー………ととてもまずい。